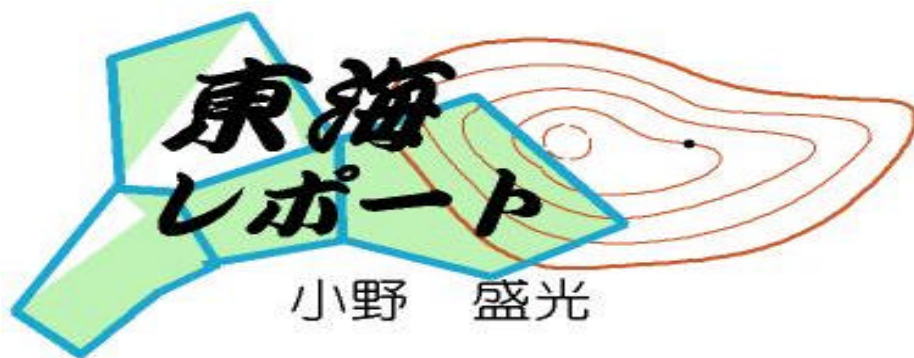




発展中の学生クラブの大会に 汗だく

第2回名大楯山大会

2008年9月23日(祝)

2,3日おきに雨がふる今年の9月であつたが、運よく好天に恵まれ、愛知県岡崎市の山間部にある愛知県野外教育センターで開催された第2回名大楯山大会に117名のエントリーがあつた。東は宮城、西は兵庫からの遠来の参加もあり、急峻なトレインに汗だくのレースを繰り広げた。特に男子ロングコースは7.3kmと他のコースと比べ長く、多くの参加者が2時間を越える厳しいレースとなつた。

表彰を受けた男子のベテラン参加者は、「2,3のミスがあつたが、気を抜かずがんばりぬいた結果勝つことができた」と語っていた。

また、実行委員長の山川さんは、「名大大会から数えると今年で12回目の開催になりました。大会運営経験ゼロ回運営陣であり、準備期間も短かつたですが、一生懸命がんばってきました。後援をいただいた中日新聞社を始め、多数の支援をいただいた方々に感謝したい」と挨拶された。

(小野盛光)

オリエンティア2種目優勝

第3回三河高原トレイルラン

2008年9月28日(日)

昨年は激しい雨でコースの路面荒れなど、様々な問題が顕在化した三河高原トレイルラン大会だったが、今年は2日間の雨の合間が、丁度大会の前日と当日になり、幸運だった。新城市の鬼久保ふれあい広場を発着とし、ロングとショート2コースを提供しているこの大会ですが、ロングコースは昨年より5kmほど短縮し約20km、ショートも2kmほど短縮し8kmとした。ロングにおいては、従来は国道の下をくぐるため、国道と交差する川岸を走るといふ無理を強いていたが、短縮に伴い、それが不要になった。また、競

技終了時間も1時間以上早くなり、昨年は暗闇の中で片付けたが、今年は明るうちに解散することができた。

大会の宣伝はランニング関係の雑誌掲載、要項の前回参加者へのダイレクトメール、近隣の山関係のスポーツ店へ置いていただくなどを行い、申込はランネットというランニング関係のネット申込と振込+郵送・FAXによる方法です。これで、あとはほっておいても1000名近い申込者があり、しかも、愛知県内の方が大部分ということで、ランナー人口の大きさと情熱を今年も強く感じた。要項のダイレクトメールとプログラムの送付に当たってはオリエンテーリングへの勧誘パンフレットを同封し、我々の本業オリエンテーリングの宣伝を行った。また会場でWOCの記録ビデオを流したが、前座で流した昨年のトレイルラン大会の記録ビデオより関心はかなり低いように見受けられ、宣伝の成果に早くも黄信号を感じた。

レース結果では大変すばらしい結果がでた。男子ロングの18歳から35歳のクラスで山口大助さん、男子ショートの18歳から45歳のクラスで地元の松澤俊行さんが優勝した。オリエンティアの優勝はオリエンテーリングの宣伝に大変効果が高いはず。

前記のように、前年参加者へのダイレクトメールを送付し、プログラムも送付している。しかも要項はカラー印刷。競技人口が低迷しているオリエンテーリングでは収支の関係で単独の大会では大変難しいことですが、ランニング大会で得た余剰金をオリエンテーリングのカラー要項やダイレクトメールに使ってこそ、オリエンテーリングの団体ではないででしょうか。

1,2回の反省を踏まえ、今回は大きくコース、運営方法を変えたが、昨年の失敗がかなり解消され、これからは、今年の運営方法を基礎に進めていけるという感触を得た大会だった。

(小野盛光)



中日新聞9月31日朝刊に掲載されたトレイルランレースの様相

新城3daysの最後を飾った 愛知スポレク

2008年11月3日(祝)

第50回中日東海ブロックオリエンテーリング大会兼第1回東海選手権および学生ロング選手権をメインに開催された新城3days大会の3日目は愛知県教育委員会主催の愛知スポレクの1種目として毎年開催されているオリエンテーリング大会が280名というスポレクとしては最近にない多くの参加者を得て開催された。

公認Aの中日東海ブロック大会の影響で例年になく遠くからの参加者も多く、盛り上がった。

会場を東側の国道301号線に沿った巴小学校から南側の鬼久保ふれあい広場に移して行なわれ、ミドルディスタンスのコースで楽しんだ。

(小野盛光)



ラストコントロールからゴールへ